



「教員育成協議会」と 兵庫教育大学

昨年末に、中央教育審議会から「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」と題する答申が出されました。同答申は、教員が生涯学び続けるための仕組みや方策を、教員の養成、採用、研修の全体にわたって総合的に、また具体的に提言しています。

制度の新設や変更が数多く示されていますが、養成、採用、研修のこれまでの有り様を大きく変えるであろう画期的な制度が「教員育成協議会」(仮称)の創設です。教員育成協議会は都道府県と政令指定都市に必ず置かれます。主要メンバーは、採用と研修の責任者である教育委員会と、養成を担当し研修に協力している大学です。したがって、教育委員会と大学間の協議や連携を義務づけることで、教員の養成、採用、研修の連関性・一体性を高めることを意図した仕組みといえます。

教員育成協議会では、国の示した大綱的指針をもとに、教員がキャリアステージに応じて身につけるべき資質能力を明示した教員育成指標が作成され、教育委員会と大学によって共有されます。そして、教員育成指標を踏まえて、教育委員会は教員研修計画を策定します。また、大学の教職課程の編成方針(コアカリキュラム)も共同で策定されます。

兵庫教育大学は、教師教育のトップランナーとして、その実践と研究における全国拠点(ナショナルセンター)並びに地域拠点(リージョナルセンター)になるというビジョンを表明しています。地域拠点として、地元の兵庫県と神戸市に設置される教員育成協議会に参画することはいうまでもありません。

本学は、全国の現職教員の再教育拠点として、各地から数多くの現職教員を大学院(教職大学院、修士課程、博士課程)に受け入れています。修了生は、それぞれの地域で指導的立場で活躍しています。こうした全国拠点としての役割を果たすためには、入学者・修了者の多いところを中心に、全国の都道府県と政令市の教員育成協議会に関わる必要があります。

すでに学部と大学院の教員養成スタンダードを、本学は定めています。教職大学院の先駆的カリキュラムや、教育委員会と連携しての学校管理職養成や特別支援教育に関する研修プログラムは高く評価されています。これらの先導的取組を教員育成指標や研修計画、教職課程のコアカリキュラムの作成に活用することによって、教員育成協議会において主導的役割を果たすべきです。

10年以上前から、複数の都道府県と政令市の教育委員会をメンバーとする教師教育プログラム推進協議会を本学は設けており、各種の研修計画を教育委員会と協働で作成し、運営しています。また、学長がほぼ全ての都道府県教育委員会を毎年訪問して大学院の取組を説明していますので、下地はできていると思います。

教師教育のトップランナーとしての本学の今後の発展のために、そしてわが国の教師教育の発展のために、地元はもちろんのこと、設置者の教育委員会の意向にも依りますが、全国のできるだけ多くの教員育成協議会において本学は存在感を示すべきです。

(私の学長任期は今年度までであり、私の本欄担当は今号が最終回です。引き続き、兵庫教育大学へのご支援をよろしくお願いします。)

かじさつや
学長 加治佐哲也